

イエスのみこころと一つに それぞれの道を 校長 Sr.大山 江理子



アジサイの花が色づくころ、みこころの月を迎えます。学校の名前でもあるイエスのみこころを大切にする今月は、聖心の子どもには大事な時期です。イエスのみこころに向かい、倣い、共に生きることを目指して、聖マグダレナ・ソフィアは聖心会をたて、聖心の学校を建てていきました。イエスのみこころのもとに「一つの心一つの魂」をモットーとし、個人としても共同体としてもみこころと一つになることを目指しました。みこころと共に歩む

ことで、私たちはみこころへと変えられていきます。

みこころと一つの心を目指しながら、歩み方は人それぞれ。聖マグダレナ・ソフィアと聖フィリピン・デュシェーンの二人の生き方から、みこころに向かう道は個性的でありうると教えられます。聖マグダレナ・ソフィアは急速に発展する聖心会を束ねるリーダーとして力を発揮しながら、多くの人に慕われます。人を引きつける味わいのある言葉を発する語り手・書き手でもありました。組織の管理者としても力がありました。一方、聖フィリピン・デュシェーンはアメリカ宣教という未知の世界に踏み出す大胆さ、行動力の持ち主です。そして、開拓地での生活で日々のルーティーン仕事を誠実に果たす忍耐力をもっていました。コミュニケーションの面では、英語や先住民の言語に苦勞し、言葉より行動・沈黙・祈りの人でした。フィリピンのリーダーシップは組織の運営には向かなかったようです。ソフィと比較され、不足や失敗によってなお、その人となりの良さが語られるのを知って、フィリピンは天で苦笑しているかもしれません。このような2人の個性の多様性が生かされるのは、イエスのみこころが大きく、広く、深いからこそ。言うまでもなく、2人に共通しているのは、みこころと共に歩む思い、イエスと通い合い、まわりの人々と分かち合う心の温かさでした。

初等科でもプラクティスを通して、イエスのみこころに向かいます。一人ひとりがどのように自分らしく道を歩んでいくのでしょうか。イエスと一つの心になるために、自分の心に耳を傾け、心の奥で語られるイエスに聴きます。聴いたことを素直に実行できるよう、お互いに励まし合いながら、進んでいきます。それぞれが自分の個性に気づき、開花する時ともなることを期待しています。



生徒の作品 (9年)

6月の予定

- 4日(月) 1年・転入・編入生保護者会
- 5日(火) ~8日(金)5年校外学習(清里)
- 6日(水) 金曜時間割
6年美術館見学
- 8日(金) 家庭学習日(私学一日研修会)
※水曜時間割
- 9日(土) 学校説明会
- 13日(水) 不審者対応訓練(1年~12年)
- 14日(木) 1日学校参観日
下校グループ親子集会(4限)
- 15日(金) 2年自然教育園

~みこころの月~

- 16日(土) 聖心女子大学災害復興支援
チャリティデー(自由参加)
- 19日(火) 6年まとめのテスト①
- 20日(水) 初1年入試・初5年転編入試
対象授業公開
- 22日(金) みこころの祝日行事
ミサ・奉仕活動・音楽鑑賞会
- 25日(月) 5・6年水泳開始
- 30日(土) 保護者講演会
転入・編入・編入帰国生対象
学校説明会

◎22日(金)のミサは、1年生と各学年の転入・編入生の希望される保護者の方のみの参加となります。ご了承ください。

◎1、2年生も不審者対応訓練に参加することになりました。下校時刻が15:40過ぎになります。

豊かな時間を生きる子どもたち

教頭 中塩 百合

聖マグダレナ・ソフィア・バラを記念して、今年も運動会が行われました。春にも関わらず初夏のような暑さが続き熱中症を心配するほどでしたが、雲が丁度良く陽の光を遮り、絶好の運動会日和でした。保護者の皆様には、子どもたちへのご声援と共に様々な場面でのご協力に心より感謝申し上げます。

競技中の子どもたちは、頭と体を精一杯使い、勝つために全力を注ぎました。また、上級生は、競技・演技だけでなく係活動があります。係活動は、児童の自主性と、責任感、聖心で大切にしている惜しみない心を育む場です。休む間も無く働き、疲れもピークだったと思いますが、閉会式後はどの顔も充足感に満ち、やり切った達成感が伝わってきました。そのやり甲斐がきっと競技の勝ち負け以上に、子どもたちの心を満たし、測ることの出来ない豊かな時間をつくりだしたのでしょうか。爽やかな笑顔がそれを物語っていました。

「ジョアニークラブ(学童保育)」でも、子どもたちの心を豊かにする時間があります。ある日お客様をご案内すると、異学年の子どもたちがあちらこちらで、自分たちの好きな遊びに興じる姿がありました。将棋をする子ども、ゲームで陣取りをする子ども、折り紙を楽しむ子ども、読書を満喫する子ども・・・学年に関係なく声を掛け合い、くすくすと笑い合いながら、あるいは真剣勝負をしながら楽しむ様子は、大きな家族のようでした。何か面白い発見をした子どもが、「ねえねえ」と近くの子どもに話しかけると、それを「へえー面白いね」と共感する姿。話しかけた時返事が返ってくる喜びはかけがえのないものです。そこには温かな空間がありました。

子どもたちは、「勝ち負け」「損得」「出来る出来ない」という単純なことではなく、やり甲斐や達成感、充足感、心地よさなどが、どれほど豊かな時間をつくり、心を満たすのかを知っています。これからも、創立者が教えてくれた目に見えないものへの価値に気づき、「本当の幸せ」を生きる子どもたちであってほしいと願っています。



聖心女子大学 災害復興支援チャリティデーのお知らせ

6月16日(土) 12:30~16:00 聖心女子大学マリアンホールにて、災害復興支援チャリティデーが開催されます。

この催しは2012年より「東北を忘れない。これからも、ずっと。」というスローガンのもとで行われている長期的な復興支援の一環です。バザーの収益は、聖心女子大学および姉妹校が主催する復興支援を中心とした活動の資金として、被災地に還元されるとともに、社会的ニーズに即して活用されます。

当日は、聖心姉妹校、卒業生、聖心会などによるミニバザー、震災に関する展示、東北物産展などが行われます。初等科からは福島県南相馬市に住む小学生との手紙を中心とした交流について、展示発表があります。また、手話クラブが中高手話サークルと共に公演発表をします。公演時間は13:45~14:00の予定です。

ご都合のつく方はぜひご参加ください。初等科生は制服着用の上、保護者同伴でお願いいたします。

6月の生活目標

持ち物のルールと記名の徹底 児童手帳をよく読み確認しましょう。

みこころの月のプラクティス
「心の中のイエス様に耳を傾ける」

